

2025年1月12日 第二礼拝 二十歳感謝の時
説教題「ささやかな確信」マタイ福音書5章13～14節

主任牧師 加藤 誠

「あなたがたは地の塩である」「あなたがたは世の光である」(マタイ5:13、14)

二十歳の若者たちを迎えての礼拝を感謝します。若者たちには固定観念にしばられることなく、自分なりの夢を大切に抱いて、「これ」と思った道にぜひチャレンジして行ってほしいと心から応援したいと思います。もっとも聖書では、夢を抱いて歩むのは若者だけではありません。「老人は夢を見、若者は幻を見る」(ヨエル3・1)。聖書には回り道をして年を重ねてから神さまの働きに招かれている人がたくさん出てきます。失敗したり逃げたりすることがあっても大丈夫。神さまはどんな失敗をした人にも歳を重ねた人にも夢を与えて、ご自身の働きに招いてくださいます。教会にはそのように年を重ねてなお夢を抱いて歩む方たちがおられることは大きな恵みです。

今朝は、73年の生涯を通して神さまからの夢を抱き抱き歩まれた中村哲さんがよく口にされた「ささやかな確信」という言葉に心を向けたいと思います。中村さんは40年前にアフガニスタンにわたって医療に尽くし、また干ばつで苦しむ人々に笑顔を取り戻したいと、用水路をつくって荒れ野を緑の大地に変える働きをされました。

中村さんは高校生の時に福岡の小さな教会で藤井健児先生という盲人の牧師と出会います。目が見えないのにどうしてこんなにうれしそうに神さまのお話をしているんだろう。虫が大好きで物静かな若者だった中村少年は「藤井先生のように、神さまのお手伝いをして、だれかのために働く人になりたい」という小さな決心を胸に、医学を志し、クリスチャン医師としてアフガニスタンに出かけたのでした。

この中村哲さんの働きを20年以上取材した谷津賢二さんというドキュメンタリーカメラマンが最初の出会いの時のことを回想しています。実際に会った中村哲さんは小柄で無口、声も小さな人。巡回診療に同行取材した時も、正直なところ「これでは絵にならないな」と思ったそうです。けれども標高3500mの草原で、夜を徹して歩いて集まってきた人々の病気の治療にあたる中村さんの姿に圧倒されていきます。山の民を深く慈しむ中村さんと、その中村医師に深い信頼と敬意を寄せる山の民の人々。

「カメラ的に絵になるものしか見ていなかった自分はなんと浅はかだったのか。カメラには映らないものがある。自分には見えないものがあることを思い知らされた」と。

また2010年、用水路に水を取り込んでいるクナール川が増水した時のこと。身を賭してパワーショベルに乗り、増水した用水路に向かう中村さんを村人たちが止めた時、中村さんはこう言ったそうです。「わたしは用水路とアフガニスタンの人のためなら死んでもいい。あなたたちもアフガニスタン人でしょう。自分たちの村を守るために、

今、やるべきことがあるのではないですか」。それを聞いた村人たちは雷に打たれたようにそれぞれ覚悟を決めて力を合わせて洪水から村を守ったそうです。

中村哲さんは「ささやかな確信」として、こう語っておられます。「人の真心は信頼するに足る。いろんな人にだまされたり、裏切られたり。いろいろありましたがけれども、やはりその人の持っている真心には共通したものがあって、それは信頼するに足る。どんな人にも真心が必ずあると、その真心を信じる時、人は動く。人は愛するに足る。人間には悪いやつも、いいやつもいる。戦争もするけれども、人というのは愛すべき存在なのだから、あきらめてはいけない」と。

最後まで信じること。最後まで愛すること。それは中村哲さんがイエス・キリストから学んだことでした。飼い葉桶に小さく生まれ、十字架の道を歩み通されたキリストがその命をかけて、私たちに手渡してくださった「神さまの真理」でした。

今朝一緒に読んだ主イエスの言葉、「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」。ここで「あなたがた」と呼ばれているのは、病気を抱え、いろいろな苦しみを抱えた、生きるだけで精いっぱいの人たちです。主イエスは「そのあなたがた」は「地の塩・世の光」だと言われた。塩は人が生きるのになくてならないもので、当時も貴重なもの、高価なものだったそうです。また山の上の一軒家のぼつんとした光は、夜を旅する人の大切な目印。世界中を照らす光ではなくても、誰かの心を照らす光になる。主イエスは目の前に集まった病気を抱えた人たちに、あなたがたは塩や光のように高価で、大切な一人ひとりなのだと言われたのです。また塩はものが腐ることを防ぐように、あなたがたも深く傷ついた心と体を生き活きと再生させ、正しいことが曲げられるのを防ぐ働きをする。他の人には「貧しく、弱々しく見え」ても、あなたがたは他の人を元気にさせる力を持った存在だと語られたのです。

そして主イエスは言いつばなしでなく、神さまと私たちをつなげる方として、どんな時にも私たちから離れず私たちを見離さずに、共にいる。その深い覚悟を持って「あなたがたは地の塩・世の光」と言われたのです。中村さんに「ささやかな確信」を与えてアフガニスタンの山の民と共に歩ませた根源的な力はこの主イエスにあるとわたしは思います。病気の人たちを「大切な地の塩・世の光」として見る主イエスの慈しみをもって中村さんはアフガニスタンの人びとと命を分かち合っていたのです。

これからそれぞれの人生の道を歩いていく若者たちに伝えたいのは、世の中には外側は素敵に見えて中身は腐っている「偽物」があふれているということ。そんな世の中であって「ほんもの」を見つけて行ってほしい。「ほんもの」を見分けるヒントは聖書の主イエスが教えてくださいます。なぜならこの方こそ「ほんもの」の方だからです。人生は選択の連続。毎日どちらを選ぶのか、迷いの連続。その時に主イエスに教えていただきながら「ほんもの」を見つけいく歩みを一緒にしていきましょう。